

## 日本脳炎予防接種について

5月30日付けで厚生労働省から現行の日本脳炎ワクチンによる日本脳炎予防接種を積極的に実施することを見合わせるようにという勧告があり、広報無線、小中学校、保育園、幼稚園を通し当面見合わせるというお知らせをしたところですが、保護者の方が接種を強く希望される場合においては、副作用について十分理解し同意書を提出していただいた場合に限り現行ワクチンを使用して、町で実施します。とくに強く希望される場合は揖斐川保健センター（Tel 23 - 1511）へ7月5日までにご連絡ください。

## 日本脳炎について

日本脳炎ウイルスの感染によっておこる、神経（脳や脊髄など）の病気です。

感染経路：人から人への感染はなく、ブタなどの動物の体の中でウイルスが増えた後、そのブタを刺した蚊などが人を刺すことで感染します。

症状：症状なく経過する 경우가ほとんどで、過去には100人～1000人の感染者の中で発病するのは1人程度と報告されています。症状が出るものでは、感染してから6～16日後に、数日間の高熱（38～40℃かそれ以上）、頭痛、嘔吐で発病し、急激に意識障害、けいれんなどの症状を示す急性脳炎になります。

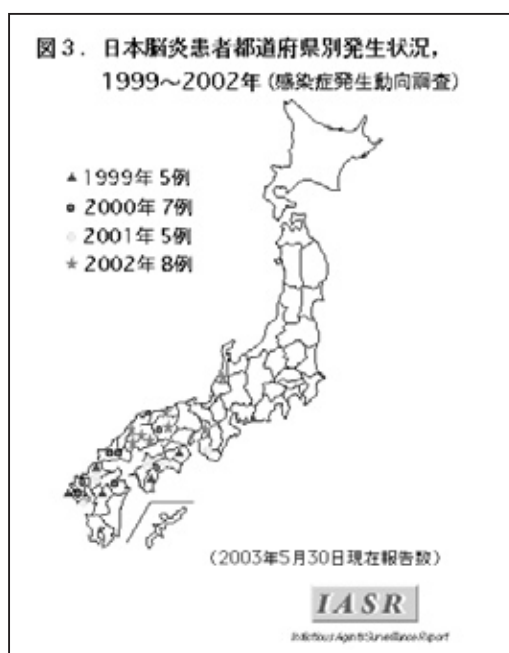
症状が出る可能性は少ないのですが、症状が出た人のうち、約15%が死亡に至る病気といわれており、幼少児や老人では死亡の危険は大きくなっています。

感染者数：国内では、近年の患者の発生は年間数名で、おもに中高齢者となっています。

日本での患者発生は西～南に集中しており、国外では東アジア・南アジア（朝鮮半島、台湾、中国、ベトナムなど）にかけて発生があります。

これらの地域へ旅行される方は注意が必要です。

流行期間：蚊が発生する期間と重なっており、毎年7月～11月まで続きます。



## 今回の積極的勧奨の差し控えについて

定期予防接種として、日本脳炎ワクチンの積極的な勧奨を差し控えた理由は、マウス（ねずみ）の脳を用いた現在の日本脳炎ワクチンと、それを接種した後の※重症 ADEM 発生との因果関係があると判断されたためです。

※ 重症 ADEM（急性散在性脳脊髄炎）とは、ウイルスの感染後、あるいはワクチン接種後に、まれに発生する脳神経系の病気です。予防接種の副作用として、70～200万回の接種に1回程度、きわめてまれに発生すると考えられています。通常、ワクチン接種後数日から2週間程度の間で発熱、頭痛、けいれん、運動障害などの症状があらわれます。ステロイド剤などの治療により回復する例が多く、良性的病気といわれていますが神経系の後遺症が10%程度あるといわれています。

日本脳炎ワクチンの他の副作用として、まれに接種直後から翌日に発疹、じんましん、かゆみなどがみられます。また、全身症状としては、発熱、さむけ、頭痛、だるさなど、接種部位の症状として、発赤、はれ、痛みなどがありますが、通常は2～3日中に消えます。